

2020年1月13日(月:成人の日) ジギング 三重県鳥羽湾 強丸

中潮:旧12/19 干潮01:28(-24cm) 満潮08:09(192cm) 干潮13:40(74cm) : 鳥羽

自分: サワラ 77cm 1尾 喧嘩ブリ 74cm 4.2kg 1尾 ハマチ40cm 1尾

ツレ: ハマチ 40cm 5尾 キジハタ 1尾

6時00分 集合 | 8時09分 満潮(192cm:鳥羽)
6時30分 出船 | 14時00分 納竿, 沖上がり

【仕掛け】 ジグ 150g (ショートジグ150gというアナウンスがあった。)

【料金】 乗り合い 男性 11,000円 女性 9,000円 水洗トイレあり

【様子】

- 天気が良さそうなので、木曜日に予約の電話をした。功成丸は土曜日も日曜日一杯とのことだった。強丸は月曜日のジグなら空いているとのことだったので、これに行くことにした。
- 予約は3日前では遅いということだ。
- 強丸はジグ専用船と主に餌釣りをしている大船と2隻あるが、今日は大船もジグだった。自分たちが乗ったのは大船だった。
- 土曜日、日曜日は風のない良い日だったが、今日は晴れるが風が強い(6m)という予報だった。
- 5時05分に現地に到着、駐車場で5時30分まで寝ることにした。5時30分になり着替えをして栈橋に行ったら、すでに多くに人が船に乗っていた。船長に声をかけ受付をした。左舷の胴(操舵室横)と指示された。
- 酔いやすい体質なので、左舷の胴で良かった。酔い止めは4時頃に飲んだ。
- 終日、風が強かった。白波がたっていたが、船が大きく上下することはあまりなかった。酔い止めの効果もあり、まったく酔わなかった。
- 最初の場所は水深40mだったか。次が70mだった。最後の場所は30mで、時には25mというアナウンスがあった。帰港前にもう1カ所試した。
- 釣りを始める前に、「ショートジグ150g」というアナウンスがあった。
- サワラ対策のため、リーダーの先にフロロ16号を50cm付け、リアフックにはトレブルフックを付けた。
- 自分は“ガンテツ 緑金 150g”を、ツレは“ガンテツ 赤金 150g”をセットした。
- 最初の場所は水深40mだったか。なかなか当たらない中、グン、グンと当たってきたが、釣掛かりしなかった。リアフックの釣先を確認したら、ささがりが悪いように思えたので、シングルフックを2つ付けた。
- この当たりがあって、すぐに移動となった。
- 水深70m。ジグが着底後、すぐにワンピッチで巻き上げ、5~6回巻いたところで竿を2回振り上げ、ジグをフォールさせたら当たりがあった。船長にすくってもらった。サワラだった。船中で一番初めに釣った。潮止まり前だろうか。
- サワラを締めて、しばらくしたら、ツレが道糸から切られた。サワラの仕業だろう。
- 自分の竿をツレに使うように伝え、自分はツレのリーダーをセットしていたところ、ツレが隣の人とお祭りした。お祭りをした人にこちらの道糸を切っても良いと伝えたら、そのまま道糸を切ったようで、ジグは海中へ…。えっ!? サワラを掛けたガンテツ150g緑金がなくなった。
- その後、時間が経っても当たらない。今日はここまでか。11時だったろうか。移動となった。
- 水深30mとアナウンスがあった。すぐに隣の人がハマチを掛けた。続いて、ツレがハマチを掛けた。ハマチを外すために、自分の竿をツレに渡した。ハマチを外している間に、また、ツレがハマチを掛けた。ジグは、ガンテツ150gブルピンだった。
- 自分もハマチを釣りたい。しかし、時合いが去ったのか、釣れない。ツレに「どうやって釣ったの?」と



言っていたら、当たりがあった。

- 着底して、巻き始めにヒットした。引きが強い。バレないか、糸が切れないかと心配した瞬間があった。船長にすくってもらった。ブリ(ワラサ)だった。
- その後、ハマチを1尾追加した。こちらも着底すぐだった。
- 自分が釣ったブリ(ワラサ)は“喧嘩ブリ”と言うのだろう。これは、「ワラサだ」「いや、ブリだ」と言い合うような大きさを“喧嘩ブリ”と言うそうだ。下船時に船長から店前で計量しているの、そちらへ持って行ってと言われた。店では、ブリダービーを実施しており、2尾の重さの合計で競うとのこと。自分のブリも計量してもらった。4.2kgだった。
- ブリ、ハマチをさばいたとき、胃の中から10cmくらいの細長い魚(コウナゴかな?)が出てきた。ベイトに合わせてジグを選ぶということだから、ショートジグというアナウンスだったのだろう。

【釣り方】

<自分の釣り方>

その1:着底後、“ワンピッチを5～10回した後、竿の振り上げを2回してジグをフォールさせる”ことを3回繰り返す。当たりがなければ、そのままジグを底まで落とす。

水深30mの時には、“ワンピッチ7回した後、竿の振り上げを2回してジグをフォールさせる”を2回繰り返した。当たりがなければ、そのままジグを底まで落とす。ワンピッチ7回を2セットして、当たりがなければ、そのまま底まで落とすという釣り方は隣の人のまねである。

その2:「着底後すぐ早巻き5～10回、その後、速いワンピッチ、それから、スピードを落としてのワンピッチ」(伊勢湾ジグの釣り方としてYouTubeに掲載されていた釣り方)

<ツレのハマチの釣り方>

着底したら、すぐに早巻きした。ワンピッチではなく、ただただ速く巻いた。

着底してすぐにヒットだったり、着底して少し巻いたらヒットというパターンだった。

<隣の人の釣り方>

○右隣の人は、サワラ2尾、ヒラメ1尾、ハマチ5尾という釣果だった。この人の釣り方は、「着底後、ワンピッチ10回してから竿を振り上げ、更に、ワンピッチ10回で竿を振り上げて、そのまま、底まで落とす」を繰り返していた。水深30mの時は、ワンピッチの回数が7回だった。ずっと同じ釣り方だった。

○左隣の人がブリを釣った。TGベイト120g赤金だった。この人の釣り方は、「着底後すぐ早巻き10回、その後、速いワンピッチ、それから、スピードを落としてのワンピッチ」というやり方と、「着底後からすぐにワンピッチ」というやり方だった。前者は伊勢湾ジグの釣り方としてYouTubeに掲載されていた釣り方である。ブリを釣ったのはどちらの方法だったかは分からない。

※サワラは底から5～6回巻いたところで、ブリ・ハマチは着底すぐや着底して少し巻いたところでヒットした。リールの一巻きを0.6mと考えると、サワラは底から3～4m上であり、ブリ・ハマチはほとんど底である。当たりがなかったとしても、魚の視界からジグをはずすことも必要であることを考えると、底から10m巻き上げれば十分であろう。底から10mは、リールの巻き数は17回である。隣の人が10回巻きを2セットした後、ジグを再び底まで落としていたというやり方は、理にかなっていない。次回の参考にしたい。

※強丸の大船は探検丸の親機を備えていることが分かったので、スマホに探検丸アプリをインストールして望みたい。

【リール、道糸、リーダー】

○リールは、二人ともウタセ真鯛用に購入したリールで、PEライン1.5号が巻いてある。

○使用したリールのリーダーは以前に付けたもので、号数や長さは不明である。

○現在

自分用のリールのリーダーは以前に付けたものをそのままである。フロロ5号6mかな。

ツレ用のリールのリーダーはフロロ25ポンドを

2ヒロ付けてある。

リーダーは1.5ヒロが良いが、少し切れたとしてもリーダーを付け直す必要がないようにするため、2ヒロ付けた。

【ヒットジグ】

- ガンテツ 150g 緑金 サワラ
- ガンテツ 150g ブルピン ブリ・ハマチ